

# **BACCALAURÉAT GÉNÉRAL**

**SESSION 2005**

## **JAPONAIS**

**Langue vivante 1**

**Série L**

Durée de l'épreuve : 3 heures - Coefficient : 4

*L'usage de la calculatrice et du dictionnaire est interdit.*

Dès que ce sujet vous est remis, assurez-vous qu'il est complet.

Ce sujet comporte 5 pages numérotées de 1 à 5

**Barème de notation**

Compréhension/expression	14 points
--------------------------	-----------

| Traduction | 6 points |

## TEXTE

1 佳子は、毎朝、主人の登序<sup>とうちよう</sup><sup>1</sup>を見送ってしまうと、それはいつも十時を過ぎるのだが、や  
っと自分のからだになって、洋館のほうの書斎<sup>しょさい</sup><sup>2</sup>へ、とじこもるのが例<sup>す</sup><sup>3</sup>になっていた。そこ  
で、彼女は今、K雑誌<sup>かのじよ</sup><sup>ぎっし</sup>のこの夏の増大号<sup>ぞうだいごう</sup><sup>4</sup>にのせるための長い小説にとりかかっているのだっ  
た。

5 美しい、上手な作家としての彼女は、このごろでは、外務省<sup>がいむしょう</sup>につとめている夫の影を薄く  
思わせるほど、有名になっていた。彼女のところへは、毎日のように知らない崇拝者<sup>すうはいしゃ</sup><sup>5</sup>たちか  
らの手紙が、たくさん送られてきた。

今朝も、彼女は書斎の机<sup>つくえ</sup>の前に座ると、仕事にかかる前に、先ず、それらの知らない人々  
からの手紙に目を通さなければならなかつた。

10 それはいずれも、極りきつたように<sup>きま</sup><sup>6</sup>、つまらないものばかりであったが、彼女は、女のや  
さしい心から、どのような手紙であっても、自分にあてられたものは、ともかくも、ひと通  
りは読んでみることにしていた。

15 簡単なものから先にして、二通の封書<sup>ふうしょ</sup><sup>7</sup>と、一枚のはがきを見てしまうと、あとにはかさ高  
い<sup>8</sup>原稿<sup>げんこう</sup><sup>8</sup>らしい一通が残った。別段通知の手紙はもらっていないけれども、そうして突然原稿  
を送つてくる例は、これまでにもよくあることだった。それは、多くの場合長々しく退屈さ  
わまるものであったけれど、彼女はともかくも、表題だけでも見ておこうと、封を切つて、  
中身を取り出してみた。

20 それは、思った通り、原稿用紙を綴じた<sup>とじた</sup><sup>10</sup>ものであった。しかし、どうしたことか、表題  
も署名<sup>しょめい</sup><sup>11</sup>もなく、突然「奥様」<sup>おくじょう</sup><sup>12</sup>といふ呼びかけの言葉<sup>ことば</sup>ではじまつてゐるのだった。さてな<sup>13</sup>、  
では、やっぱり手紙なのかしら。そう思つて、何気なく二行三行と目を走らせて行くうちに、  
彼女はそこから、なんとなく変な、妙<sup>みょう</sup>に氣味わるいものを予感した。持ち前の好奇心<sup>こうきしん</sup>が、彼  
女を、ぐんぐん先を読ませて行くのであった。

「奥様、 奥様のほうでは、少しも御存じない男から、突然、このようなぶしつけ<sup>13</sup>なお  
手紙を差し上げる罪を、幾重にも<sup>14</sup>お許しください。……………

江戸川乱歩「人間椅子」より

## Notes de vocabulaire

---

- <sup>1</sup> 登庁 : départ au travail (dans un bureau gouvernemental).
- <sup>2</sup> 書斎 : 本を読んだり、物を書いたりするための部屋。
- <sup>3</sup> 例 : 習慣 しゅうかん
- <sup>4</sup> 増大号 : numéro spécial
- <sup>5</sup> 崇拝者 : ファン、熱心な愛好者 ねっしん
- <sup>6</sup> 極まりといったように : いつものように。
- <sup>7</sup> 封書 : 手紙
- <sup>8</sup> かさ高い : 厚い あつ
- <sup>9</sup> 原稿 : 本になるまえのもととのテキスト
- <sup>10</sup> 繰じる : かさねていっしょにする。
- <sup>11</sup> 署名 : サイン
- <sup>12</sup> はてな : interjection marquant l'étonnement face à quelque chose de mystérieux
- <sup>13</sup> ぶしつけ : 無礼な、失礼な
- <sup>14</sup> 幾重にも : くりかえし、何度も

## COMPRÉHENSION / EXPRESSION

### A

A、B、C のうち、どれがテキストの内容にあっていいるのでしょうか。本文からその部分を抜き出して、あなたの答えを立証してください。（立証する justifier）

- ① A 佳子の家は、和風です。  
B 佳子の家は、洋風です。  
C 佳子の家は、和風の部屋もあつたり、洋風の部屋もあつたりしています。
  
- ② A 佳子の夫は、仕事のためとてもいそがしくて、うちにあまりいないので、影が薄くなりました。  
B 夫より佳子のほうが社会的に知られているので、夫の影が薄くなりました  
C 夫の外務省での仕事はそんなに重要でないから、主人の影が薄くなりました。

### B

1. 佳子の仕事は何ですか。
  
2. 佳子はどうして書斎に「とじこもる」のでしょうか。
  
3. 佳子がたくさんの手紙を毎日もらうのはどうしてでしょうか。
  
4. 佳子は、自分にあてられた手紙をいつ読みますか。
  
5. 佳子は、どうして、もう原稿の「表題だけでも見ておこう」（15行目）としか思いませんか。
  
6. 今朝もらった原稿は、どこが変ですか。
  
7. あなたは、手紙を読み始めた佳子が、終りまで読むと思いますか。どうしてそう思いますか。
  
8. この手紙を書いた人の気持ちはどんな気持ちでしょうか。
  
9. 佳子さんがこの知らない男からもらった手紙の続きを書いてください。（300 signes）

## **TRADUCTION**

Traduisez en français le passage allant de la ligne 17 (à partir de それは、...) jusqu'à la fin du texte.